

# *Le Bougen Concert*

## プログラム

CH. W グルック

*Opera "Paride ed Elena" O del mio dolce ardor*  
～オペラ「パリーデとエレナ」より、ああ私の優しい熱情が～

V. ベッリーニ

*Vaga luna, che inargenti* / 優雅な月よ

*Per pieta bell'idol mio* / 私の偶像よ

G. ヴェルディ

*Il poveretto* / 哀れな男

F. P トステイ

*L'ultima canzone* / 最後の歌

J. S バッハ

平均律クラヴィーア曲集  
第1巻 17番 BWV862

F. ショパン

練習曲 作品 10-5

練習曲 作品 25-6

=休憩 15分=

L・V・ベートーヴェン

ピアノソナタ第3番ハ長調 Op. 2-3  
*Sonate fur Klavier Nr. 3 C-Dur Op. 2-3*

第1楽章 Allegro con brio

第2楽章 Adagio

第3楽章 Scherzo, Allegro

第4楽章 Allegro assai

## 作曲家プロフィール

**クリストフ・ヴィリバルト・グルック** (*Christoph Willibald (von) Gluck*, 1714年－1787年)

現在のドイツに生まれ、現在のオーストリアとフランスで活躍したオペラの作曲家。バレエ音楽や器楽曲も手懸けしましたが、現在では歌劇《オルフェオとエウリディーチェ》によって、中でも間奏曲《精霊たちの踊り》でよく知られています。オペラの改革者として歴史に名を残していますが、ドイツ語のオペラはひとつもありません。

**ヴィンチェンツォ・ベッリーニ** (*Vincenzo Bellini*, 1801年－1835年)

シチリア島・カタニーアに生れ、パリ近郊で没した作曲家で、主としてオペラ作曲家として有名です。ロッシーニやドニゼッティと共に19世紀前半のイタリアオペラ界を代表する才能の持主です。中でも特にベッリーニについてはショパン、ベルリオーズ、ワーグナーから、賞賛と愛情の言葉を与えられています。父親も祖父も音楽家であり、音楽を学ぶ前から作曲を始めたという神童でした。1985年から1996年まで発行されたイタリア5000・リレ(リラの複数形)紙幣に肖像が採用されていました。

**ジュゼッペ・フォルトゥーニョ・フランチェスコ・ヴェルディ**

(*Giuseppe Fortunino Francesco Verdi*, 1813年－1901年)

19世紀を代表するイタリアのロマン派音楽の作曲家であり、主にオペラを制作しました。代表作は『ナブッコ』、『リゴレット』、『椿姫』、『アイーダ』などがあります。これらの作品は世界中のオペラハウスで演じられ、またジャンルを超えて親しまれています。ヴェルディの活動はイタリア・オペラに変革をもたらし、最も重要な人物と評価されています。1962年から1981年まで、イタリア1000リレ紙幣に肖像が採用されていました。

**サー・フランチェスコ・パオロ・トスティ** (*Sir Francesco Paolo Tosti*, 1846年－1916年)

イタリアの作曲家。イタリア、イギリスで声楽教師となりました。とくに歌曲の作曲家として知られています。1906年には英国臣民となり、1908年には準男爵に叙せられましたが、1912年にイタリアに戻っています。

**ヨハン・ゼバスティアン・バッハ** (*Johann Sebastian Bach*, 1685年－1750年)

18世紀ドイツにおいて活躍した作曲家。鍵盤楽器の演奏においても高名であり、当時から、即興演奏の大家として、広く認識されていました。西洋音楽の歴史で、後世の作曲家に大きな影響を与え、近代西洋音楽の基礎をつくったとして「音楽の父」と称されています。バッハ一族は、数多くの音楽家を世に出した一族として知られています。バッハ家が、世に出した音楽家の人数は、二世紀半の間に約60人に達しました。ヨハン・ゼバスティアン・バッハは、その他のバッハ一族の人物との混乱を避けるため、「J. S. バッハ」と略記することがあります。また、バッハ一族の中で、西洋音楽の歴史に、最も重要な功績を残した偉大なる音楽家ということから、古くから「大バッハ」と呼ばれてもいます。

**フレデリック・フランソワ・ショパン** (*Frederic Francois Chopin*, 1810年－1849年)

ポーランドの前期ロマン派音楽を代表する作曲家。その作曲のほとんどをピアノ独奏曲が占め、ピアノの詩人とも呼ばれるように、様々な形式、美しい旋律、半音階的和声法などによってピアノの表現様式を拡大し、ピアノ音楽をまったく新しいものとして切り開いていきました。ノクターンやワルツなど、今日でも彼の作曲したピアノ曲は、クラシック音楽ファン以外にもよく知られており、ピアノの演奏会において取り上げられることが最も多い作曲家の一人でもあります。

1988年からポーランドで発行されていた5000ズウォティ紙幣に肖像が使用されていました。また、2010年にもショパンの肖像を使用した20ズウォティの記念紙幣が発行されています。

**ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン** (*Ludwig van Beethoven*, 1770年－1827年)

ドイツの作曲家。音楽史上極めて偉大な作曲家の一人とされ、「楽聖」とも呼ばれています。その作品は古典派音楽の集大成であり、ロマン派音楽の先駆けとされています。

ピアノソナタ第3番は25歳のときの作品で、尊敬するフランツ・ヨーゼフ・ハイドンに献呈したop-1～op-3までの3曲のうちのひとつです。若きベートーヴェンが、それでも後年の片鱗を覗かせる技巧に富んだ作品といえます。この後、1804年に交響曲第3番を発表したのを皮切りに、その後10年間にわたって中期を代表する作品が書かれ、ベートーヴェンにとっての「傑作の森」(ロマン・ロランによる表現)と呼ばれる時期となるのです。

ところで、コンサートのテーマ:ル・ボージョンとは萌芽・発芽を意味するフランスのことばです。今日の「萌芽」がやがて若人の「傑作の森」へと広がりますように、と願っています。